



## 日本公庫の劣後ローンのケーススタディ

前回のレポートで、日本政策金融公庫（国民生活事業）の「挑戦支援融資制度」（劣後ローン）についてご案内しました。

[http://www.k.jfc.go.jp/tyuushou/chosen\\_m.html](http://www.k.jfc.go.jp/tyuushou/chosen_m.html)

早速、実行されたようですので、事例をご紹介します。下記は、日本政策金融公庫からの公表内容をまとめたものです。

### ●事例 1. 株式会社 TESS（テス）

- ・平成 20 年 11 月創業、足こぎ車椅子の販売
- ・融資額 500 万円

当社は膝関節痛などで歩行が困難な方や脳卒中などで車椅子生活を余儀なくされた方向けに足で漕いで動く車椅子の製造・販売をしている。当社の製品を使うと、足の筋肉が使われるため、立つ、歩くといった動作のリハビリになる。また、従来品に比べて①小型化・軽量化している、②段差を乗り越えやすい前輪駆動である、③360 度旋回が可能であるといった特徴がある。当事業は、東北大学医学部教授が発明して権利化した特許技術を活用し、事業化したものである。

### ●事例 2. 羽鳥建築設計室

<http://www.arc-h.com/>

- ・平成 16 年 2 月創業、建築設計
- ・融資額 500 万円

顧客主導の住宅設計をコンセプトに、建築の各工程において分離発注方式を導入。業界では不透明になりがちな原価率や利益率を公開することで、顧客の安心と信頼を高め受注の増加（売上の増加）につなげる。受注した工事は、すべて当社が技術面で信頼する会社に発注する（下請先に再発注させない契約を締結）ことで、高品質を確保するとともに工事価格を抑える。

### ●事例 3. 株式会社アイエスティー

- ・平成 16 年 4 月創業、生体分子を標識可能とする蛍光試薬の開発
- ・融資額 1,000 万円

バイオケミストリーの分野では、蛍光色素を用いた分析方法が一般的である。当社製品は、熱・光に対する安定性に優れ、乾燥すると蛍光を失うなどの従来の色素が抱えるデメリットを解消し、新しい検出方法を可能としている。当試薬を用い

た検出法は、平成 18 年に国内外で特許取得済み。当社製品の優位性は、米国の試薬メーカーにも認められ、今後、欧米での販売拡大が期待される。当社試薬を使用した蛍光電子顕微鏡の開発もすすめられる予定であり、ガンなど細胞レベルの研究に応用が可能と見られている。

### ●事例 4. 株式会社河内スティール

<http://www.donouranger.cleans.jp/>

- ・昭和 55 年創業、土のう製造
- ・融資額 500 万円

当社は、主に鉄筋工事を行う建設業者だったが、地球温暖化による水害が地球規模で社会問題となっており、その対策として活躍している「土のう」に着目した。「土のう」は、袋詰め、運搬、設置、処理などに多くの課題もかかえており、それらを解決するために、当社は軽くてコンパクトな 4 k g のものが瞬時に 20 k g 前後に膨れ上がる「機能性緊急土のう（商品名：ドノウレンジャー）」を開発した。その他にも泥水等の水質も問わず、比重があり流されにくく、使用後に放置しておいても天然素材の為、無公害で自然に返るといった製品特性も兼ね備えており、現在は熊本県内にとどまらず全国展開中である。

この劣後ローンは出資に近いイメージの融資制度だと思ってください。よって、利益化するまでに長い時間がかかるような事業には有難いです。よって、本制度を申請する際には長期的な展望に基づいた事業計画等をしっかりと作成しておくことが重要だと思われます。また、返済方法は、原則として“期限一括返済”になりますので、その点もしっかりと頭に入れて計画して下さい。

それと社歴の古い会社は、中小企業新事業活動促進法（経営革新）などの承認を受けなくては対象にならないかもしれませんので、ご注意ください。本制度は、「新企業育成貸付」の対象者を対象としている制度です。この制度に興味のある方は是非、日本政策金融公庫にご相談してみたいかがでしょうか？！